

1年生 〈国語科〉

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・ほとんどの児童がひらがなの清音を書くことができる。
- ・「は・を・へ」などの助詞や、促音や拗音、長音に関しては、読むことはできるが、正しく書くことができない児童が一部いる。
- ・留め・はね・はらいに気を付けて書字できるように声を掛けると、筆順や形に気を付けて文字を書こうとする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・人前で話すことが苦手な児童もいたが、授業中にだんだんと発言できるようになってきている。
- ・「いつ、どこで、だれと、なにをした」等、まとまった長い文で話せるようになってきている。
- ・教師の声掛けによって、話す人の方を向いて話を聞くことができている。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・読書が好きで、物語を読むことや、音読をすることが好きな児童が多い。拾い読みをする児童が一部いる。
- ・学習した文字や言葉を使おうとする児童が多い。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・事柄等の順序に気を付けて、文章を正しく読み取る。
- ・促音・拗音・長音の表記に慣れ親しむ。
- ・正しい字形を心掛けて文字を書く。
- ・大まかな内容を捉え、事柄等の順序に気を付けて文章を読む。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・課題に対して自分の考えをもつ。
- ・話を静かに最後まで聞く。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・教科を横断して、身に付けた知識を活用できるようにする。
- ・学校図書館を活用し、本の世界に親しませる。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・事柄等の順序に留意する発問を心掛け、正しい読み取りができるようにする。
- ・促音や拗音、長音が正しく書けるように、繰り返し指導する。
- ・書写の時間を中心に、正しい字形を心掛けて文字を書くようにする。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・課題に対する自分の考えを、ノートやワークシート等にし、書き、交流しながら自分の考えを深められるようにする。自分の考えをもてない児童には、友達が書いたものを基にして、自分の考えに近いかどうかを判断させるようにする。
- ・安心して話せる学級の雰囲気を大切にする。また、少人数で交流する等、学習形態を工夫して、自分の考えを述べるができるようにする。
- ・話を静かに最後まで聞けるように、日常的に指導する。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・教科を横断して、身に付けた知識を活用できるようにする。
- ・学校図書館を活用し、本の世界に親しませたり、言葉の美しさに触れさせたりする。

2年生 <国語科>

現在の分析

<知識及び技能>

- ・読み取ったことを生かし、声の調子や大きさなどを工夫して、人物や場面の様子を音読で表現することを楽しむことができる。また、その練習に、熱心に取り組むことができる。
- ・漢字のとめ、はね、はらいや筆順に気を付けて書こうとしている。
- ・1年生で学習したカタカナ、漢字が定着していない児童が約1割いる。

<思考力、判断力、表現力>

- ・大半の児童は、相手の目を見て話すことはできる。聞く姿勢が定着していない児童もいる。
- ・事柄の順序や理由などを交えながら、話したり聞いたりすることについては、個人差がある。話型を示すと、自信をもって話すことができる児童がほとんどだが、基本の話型に付け足して話すことができる児童は少ない。
- ・時間や事柄の順序、場面の様子等を読み取る力が定着している児童が多い。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・物語や説明文を読むことや漢字の習得、言語活動などに、意欲的に取り組む児童が多い。

重点課題

<知識及び技能>

- ・句読点の打ち方や、「」の使い方を理解して、文章の中で正確に使うことができるようにする。
- ・長音、拗音、促音、撥音等の表記ができ、助詞の「は」「へ」及び「を」を文の中で正しく使うことができるようにする。
- ・カタカナや習った漢字を覚え、使えるようにする。

<思考力、判断力、表現力>

- ・自分の考えに自信をもって話すことができるようにする。
- ・言いたいことを、よりよく伝えるための語彙や表現の仕方を身に付けさせる。
- ・話を聞く時の姿勢や態度を意識させる。
- ・友達の考えを受け止め、それに対する自分の考えや感想をもちながら、話を聞くことができるようにする。
- ・文の中に、自分の感想や感じたことを書けるようにする。
- ・読み取りの課題に対する答えとなるような大事な言葉や文を、過不足なく落とさずに書き抜くことができるようにする。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・自分の気持ちや思いを書き表すことに対する楽しさを感じるとともに、苦手意識を払拭させる。

授業改善策

<知識及び技能>

- ・「書くって楽しいね」を活用し、正しく書くことに繰り返し取り組ませる。
- ・漢字検定や漢字の小テスト、漢字のまとめテストを活用して、漢字の習得と定着を目指す。
- ・読書活動や新出漢字の学習場面を活用し、より多くの言葉や表現に触れさせる。

<思考力、判断力、表現力>

- ・掲示物を活用して、話し方、聞き方のポイントを視覚的に示す。
- ・話型を示すことで、誰もが安心して話すことができるようにする。友達の発言に対する考えや感想を考えながら話を聞くよう指導する。
- ・「はじめ・中・終わり」の組み立てを考え、段落を意識して書くことを指導する。
- ・豊かな語彙や想像力、表現力を身に付けることができるよう、読書カードを活用して推進する。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・互いの考えを伝え合うことや、意見を交流することの楽しさが感じられる授業を作る。

3年生 〈国語科〉

現在の分析

〈知識及び技能〉

- ・漢字の小テストや1学期に2回行ったまとめテストの結果から、概ね漢字を習得できているといえる。今後とも小テストやまとめテスト、大田区小学生漢字検定を契機に、漢字の読み・書きの定着を図る。
- ・文章を正しく的確に読み取れるようにするため、学校と家庭とで、物語文・説明文の音読に取り組む。鍵となる言葉や文節に着目して内容の大体を掴むことができるようにする。また、各教科で国語辞典に触れる機会を増やし、語彙力と読解力の向上につなげる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・自分の考えや気持ちを伝えることに苦手意識をもつ児童がいる。
- ・根拠となる文や、問いに正対した文を見付けることが難しい児童がいる。
- ・説明文・報告文・俳句・詩等を書く活動では、それぞれの特徴や形式に留意して、ねらいに即して活動する姿が見られた。資料を基に書き写す作業は得意であるが、自分で考えて情報を取捨選択したり、事実と自分の考えを意図的に分けて書いたりすることには課題がある。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・読書に対する意欲が高いが、読書の傾向に偏りも見られる。。
- ・特に、物語文の読解では、場面の様子や登場人物の心情を想像し、考えを交流することができる。

重点課題

〈知識及び理解〉

- ・大田区小学生漢字検定合格率の目標を学年の80%以上として、漢字の定着を目指す。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・共通点や相違点を考えながら、根拠に基づいて自分の考えをもつようにする。
- ・事実と自分の考えを分けて文を読んだり、書いたりする。
- ・構成メモをもとに、原稿用紙を正しく使って文章を書く。文章を読み直し、推敲する。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・目的に応じて、幅広く読書する態度を育てる。
- ・既習の漢字を積極的に使おうとしたり、知らない言葉を進んで調べようとする態度を育てる。

授業改善策

〈知識及び理解〉

- ・授業での新出漢字の学習を丁寧に扱うとともに、単元ごとの小テストや期末のまとめテスト、大田区小学生漢字検定などを有効活用し、前年度までの漢字を含め、配当漢字の定着を目指す。
- ・音読・漢字練習・言葉集めや言葉の意味調べについて、国語辞典を日常的に活用しながら学習を行い、語彙を増やす。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・説明文の読解について、構成に注目し、それぞれの段落の中心となる文を見付けたり、事実や事例、筆者の意見を捉えたりしながら読む習慣を付ける。
- ・社会科や総合的な学習の時間など他教科とも関連させながら情報を集め、構成メモを基に、原稿用紙を正しく使って文章を書いたり、書いた文章を推敲したりできるようにする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・友達と互いの考えを比較しながら話したり聞いたりする活動を通して、自分の考えに自信をもち、全体に向けて発言しようとする意欲につなげる。
- ・読み物教材や科学読み物等学習に関連した図書を紹介したり、学校図書館を有効活用したりして、質・量の両面で読書活動の充実を目指す。

4年生 <国語科>

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・ほぼ全ての項目において目標値、区の平均正答率、全国平均正答率を上回った。
- ・「話し合いの内容を聞き取る」の問題では、全ての問題において目標値、区及び全国平均の同程度または上回った。その他のいくつかの問題においては、目標値、区及び全国平均と同程度だった。

重点課題

<知識及び技能>

- ・言葉の学習において、文の構成（主語と述語）について理解すること。
- ・3年時の配当漢字を読むこと・書くことについて、全体的にはできているが、個人差が見られる。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・国語辞典の使い方について、全体的にはできているが、個人差が見られる。
- ・物語の読解で、登場人物の気持ちの変化について具体的に想像すること。
- ・自分の考えを明確にして文章を書くこと。
- ・友達と互いの考えを比較しながら話したり聞いたりすること。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・児童一人一人が進んで自分の考えを発言しようとする態度。

授業改善策

<知識及び技能>

- ・漢字の筆順や熟語及びその意味などを丁寧に指導することで、興味や関心を引き出す。
- ・定期的なミニテストの実施によって、反復練習を徹底する。
- ・既習の漢字を使って文章を書くように指導する。
- ・辞典の活用・慣用句・ことわざ・百人一首に親しむなど、日常生活における言語活動を充実させ、語彙を増やす。
- ・一人一台端末を活用し、個別学習を通して、一人一人の進度に合った学習を提供する。

<思考力、判断力、表現力等>

- ・互いの考えを比較する交流ができるよう、「何のために交流するのか」という目的を明確にする。交流する人数を変えたり、考えを分類し、自分の立場を確認した上で異なる考えの友達と交流したりと、活動の形態を工夫する。
- ・三部構成を意識し、知らせたい事柄を中心にした文章が書けるよう、文型に沿って書く学習課題を設ける。
- ・段落同士のつながりを考えたり、段落同士をつなぐ接続語を考えたりする学習課題を設定する。
- ・学習カードや各行事のめあてカードなどを活用し、自分の思いや考えを、限られた文字数内で書く機会を設ける。
- ・教材文に書いてあることを正確に理解した上で、書いてあることを根拠にして答えを導くような発問を工夫する。
- ・説明文では、筆者がどのような事実に対して、どのような考えや意見を述べているのかを捉えたり、段落の並び方に注目してそれぞれの段落の中心となる文を見付けて正しく並べたりする課題を設定する。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・交流活動の場面を設けて自分の考えに自信をもたせ、全体に向けて発言しようとする意欲につなげる。
- ・具体物や画像、動画など、視覚的な情報を適宜与え、最後まで話に集中できるようにする。

5年生 〈国語科〉

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・全ての観点において目標値、区の平均正答率を上回った。
- ・特に、物語や説明文を読み取る問題では、目標値を10ポイント以上も上回った。
- ・漢字や言葉についての問題では、目標値より下回っているところもあり、今後の課題である。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・漢字を正しく書く。
- ・文の構成（特に修飾語）について理解する。
- ・語彙を増やす。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめる。
- ・段落の役割について理解し、段落を意識して文章を書く。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・読書への意欲。
- ・全体に向けて発言することへの積極性。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・既習の漢字を使って文章を書くように指導する。
- ・問題に繰り返し取り組み、知識の定着を図る。
- ・辞典の活用・慣用句・ことわざ・百人一首に親しむなど、日常生活における言語活動を充実させ、語彙を増やす。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・互いの考えを比較する交流ができるよう、「何のために交流するのか」という目的を明確にする。交流する人数を変えたり、考えを分類し、自分の立場を確認した上で異なる考えの友達と交流したりと、活動の形態を工夫する。
- ・段落同士のつながりを考えたり、段落同士をつなぐ接続語を考えたりする学習課題を設定する。
- ・学習カードや各行事のめあてカードなどを活用し、自分の思いや考えを、限られた文字数内で書く機会を設ける。
- ・説明文では、筆者がどのような事実に対して、どのような考えや意見を述べているのかを捉えたり、段落の並び方に注目してそれぞれの段落の中心となる文を見付けて正しく並べたりする課題を設定する。また、筆者の考えに対する自分の考えをもてるよう指導する。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・読書については、教科書教材の関連図書や、学校図書館だよりを活用し、児童自らが発達段階に合う本を選ぶようにする。また、『記録カード』や『おすすめの本紹介カード』を活用して、読書への意欲を高める。
- ・交流活動の場面を設けて自分の考えに自信をもたせ、全体に向けて発言しようとする意欲につなげる。

6年生 〈国語科〉

「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・全ての観点において目標値、区の平均正答率、全国平均正答率を上回った。
- ・特に「漢字を読む」「説明文の内容を読み取る」の問題では、目標値、全国平均を大きく上回った。
- ・「物語の内容を読み取る」と「話し合いの内容を聞き取る」の正答率の差が大きい。

重点課題

〈知識及び技能〉

- ・5年生の配当漢字の読みについて全体的にはできている（正答率95.0）が、個人差が見られる。

〈思考力、判断力、表現力等〉

- ・自分の立場や意図をはっきりさせ、計画的に話し合うことができている児童が少ない。
- ・目的に応じて、文章を簡単に書いたり詳しく書いたりすることができている児童が少ない。
- ・説明文において、文章を読んで理解したことを活用し、他の例に当てはめて考えることができている児童が少ない。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・自主的に取り組む態度に個人差がある。
- ・児童1人1人が進んで自分の考えを発言しようとする態度を育てる必要がある。

授業改善策

〈知識及び技能〉

- ・定期的な漢字の小テストの実施によって、反復練習を徹底する。
- ・既習の漢字を使って文章を書くように指導する。

〈思考力、判断力、表現力〉

- ・話の意図が何なのか考えることを意識できるように、日常的に言葉掛けを行っていく。
- ・目的を明確にした話し合いの機会を多くし、相手の考えや意見を聞いた上で自分の意見や考えを伝えたり、新たな提案をしたりする経験を積ませる。
- ・目的に合わせ、文字数を意識して文章を書く活動を多く取り入れる。
- ・説明文では、筆者の考えに対する自分の考えを書く時間を十分に取る。また、互いの考えを交流することで様々な考え方があることに気付くことができる機会を増やす。

〈学びに向かう力、人間性等〉

- ・児童が関心をもって取り組める教材や授業展開を工夫し、主体的、意欲的に取り組めるようにしていく。
- ・交流活動の場面を設けて自分の考えに自信をもたせ、全体に向けて発言しようとする意欲につなげる。
- ・分からない言葉や意味はすぐに調べるなどして、学習に対して積極的に取り組む姿勢をもたせる。